

# 第2回(仮称)大阪依存症センター機能検討会議

## 検討事項の具体化①

# 目次

	スライド
■ はじめに	1
■ (仮称)大阪依存症センターの位置づけ	2
■ (仮称)大阪依存症センターのイメージ	3
■ 主な機能の具体的内容の検討について	4
支援対象者のイメージ(ギャンブル等依存症のケース)	5
I 相談・医療・回復へのワンストップ支援機能	
1 ワンストップ支援窓口機能	6
2 地域のコーディネート機能	9
II 普及啓発・情報発信機能	10
■ センターの相談時間・場所等について	11

## (仮称)大阪依存症センター機能検討会議における検討事項

### <具体的な検討事項>

- ◆ 区域整備計画に掲げるセンターの主な機能である、「①ワンストップ支援窓口」、「②普及啓発」、「③調査分析」、「④人材養成」のうち、とりわけ、「①ワンストップ支援窓口」及び「②普及啓発」について、主に以下の点の具体化を検討。

#### 【①ワンストップ支援機能窓口】

- 医学的・相談・回復継続支援、連携構築の具体化について
- 自助グループ等との連携構築、各機関等へのつなぎのために必要な方策・人材について

#### 【②普及啓発】

- 年齢層やギャンブル経験の有無に応じたより効果的な普及啓発の内容、方法について

## 本会議での検討スケジュール(変更あり)

- ◆ より丁寧な議論を進めていく趣旨から、本会議での検討スケジュールについて、以下のとおりとする。

現行		
時期	開催回	議題
令和5年		
5月末	第1回会議	検討事項(案)
秋～冬	第2回会議	検討事項(案)の具体化
令和6年		
—	—	—
夏頃	第3回会議	検討会議のまとめ

新		
時期	開催回	議題
令和5年		
5月末	第1回会議	検討事項(案)について
12月末	第2回会議	検討事項(案)の具体化①
令和6年		
5末～6月	第3回会議	検討事項(案)の具体化② ←追加
夏頃	第4回会議	検討会議のまとめ

# (仮称)大阪依存症センターの位置づけ

## 大阪・夢洲地区特定複合観光施設区域の整備に関する計画

- ◆より多くのギャンブル等依存症に悩む人が気軽に相談等の必要な支援を受けられることができるよう、交通至便な場所にワンストップ支援拠点「(仮称)大阪依存症センター」を設置し、同センターを中心とした総合的な支援体制の強化・拡充を図る。
- ◆センターにおいては、医師、相談員、心理士など多職種による相談と合わせて、自助グループや関係団体等による相談をワンストップで提供することで、相談者の抱える様々な問題の整理と支援の方向性を検討し、必要に応じて身近な地域のサービスにつなぐことのほか、依存症対策の普及啓発、調査・分析、人材養成等の機能を果たすことをめざす。

## 第2期大阪府ギャンブル等依存症対策推進計画

### 基本方針Ⅴ 大阪独自の支援体制の推進

#### 重点施策⑦ 予防から相談、治療及び回復支援体制の推進

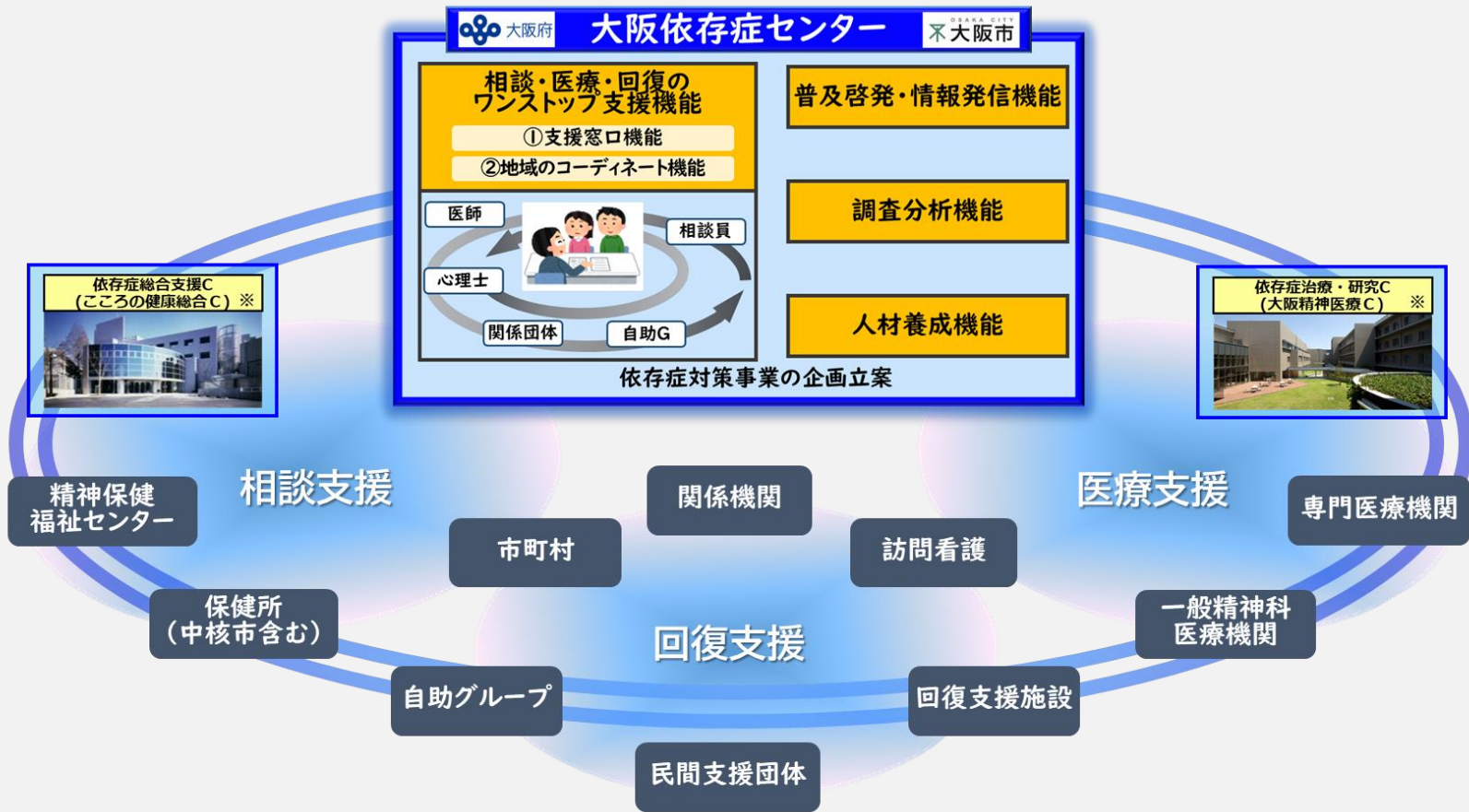
#### 【具体的取組み】

##### ■「(仮称)大阪依存症センター」の整備

- ギャンブル等依存症の本人及びその家族等に対する支援の拠点として、新たに「(仮称)大阪依存症センター」を整備する。
- 整備にあたっては、市町村や医療機関、精神保健福祉センター、保健所、民間団体等と連携し必要な支援を行えるよう、「(仮称)大阪依存症センター」の機能等に関する検討を進める。

# (仮称)大阪依存症センターのイメージ

## (仮称)大阪依存症センターのイメージ図



※「大阪府こころの健康総合センター」・「大阪精神医療センター」との機能分担については今後議論

# 主な機能の具体的内容の検討について

## 検討にあたって

(仮称)大阪依存症センターが担う主な機能について、本検討会議で得られた意見を踏まえ、具体的な内容を検討していく。  
(センター設置にあたっては、デジタル社会の熟度やニーズの変化など社会情勢を踏まえて、府・市において適切に検討していく。)

## I 相談・医療・回復へのワンストップ支援機能

### 1 ワンストップ支援窓口機能

#### コンセプト

- ▶ より多くのギャンブル等依存症に悩む人が気軽に相談等の必要な支援を受けることができるよう、交通至便な場所において、主にギャンブル等依存症を対象とし、アルコールや薬物などの依存症に対し、ワンストップ支援の窓口機能を提供。
- ▶ 多職種による相談と合わせて、医学的支援として、医療相談を実施するとともに、必要に応じ、ギャンブル等依存症の方を対象に、「回復プログラム」を実施。
- ▶ 自助グループや関係団体等による相談を提供。
- ▶ 相談者の抱える様々な問題の整理と支援の方向性を検討し、継続的な支援は、地域の医療・相談機関、各団体等へ適切につなぎを実施。

### 2 地域のコーディネート機能

#### コンセプト

- ▶ 依存症の本人及び家族等の相談・治療・回復を切れ目なく支援するためのOAC(※)の機能を高め、連携ネットワークが円滑に機能するよう、総合的な支援体制のコーディネートを実施。

※OAC(大阪アクションセンター)とは、関係機関・団体同士が連携しながら、依存症の本人・家族等の相談・治療・回復を途切れなく支援するためのネットワーク

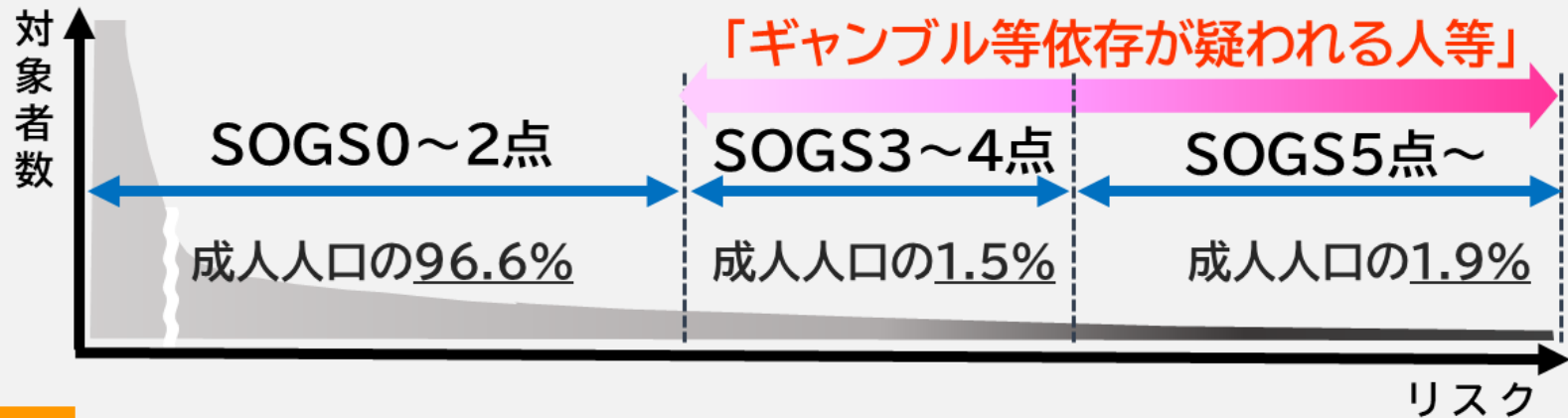
## II 普及啓発・情報発信機能

#### コンセプト

- ▶ 広報のハブ拠点として、依存症に係るデータ・エビデンスを用いたターゲット分析等をもとに、戦略的広報を広域的に展開。

# 主な機能の具体内容の検討について

## 支援対象者のイメージ(ギャンブル等依存症のケース)



### センターの 主な機能

#### I 相談・医療・回復のワンストップ支援機能

1 支援窓口機能

2 地域のコーディネート機能

#### II 普及啓発・情報発信機能

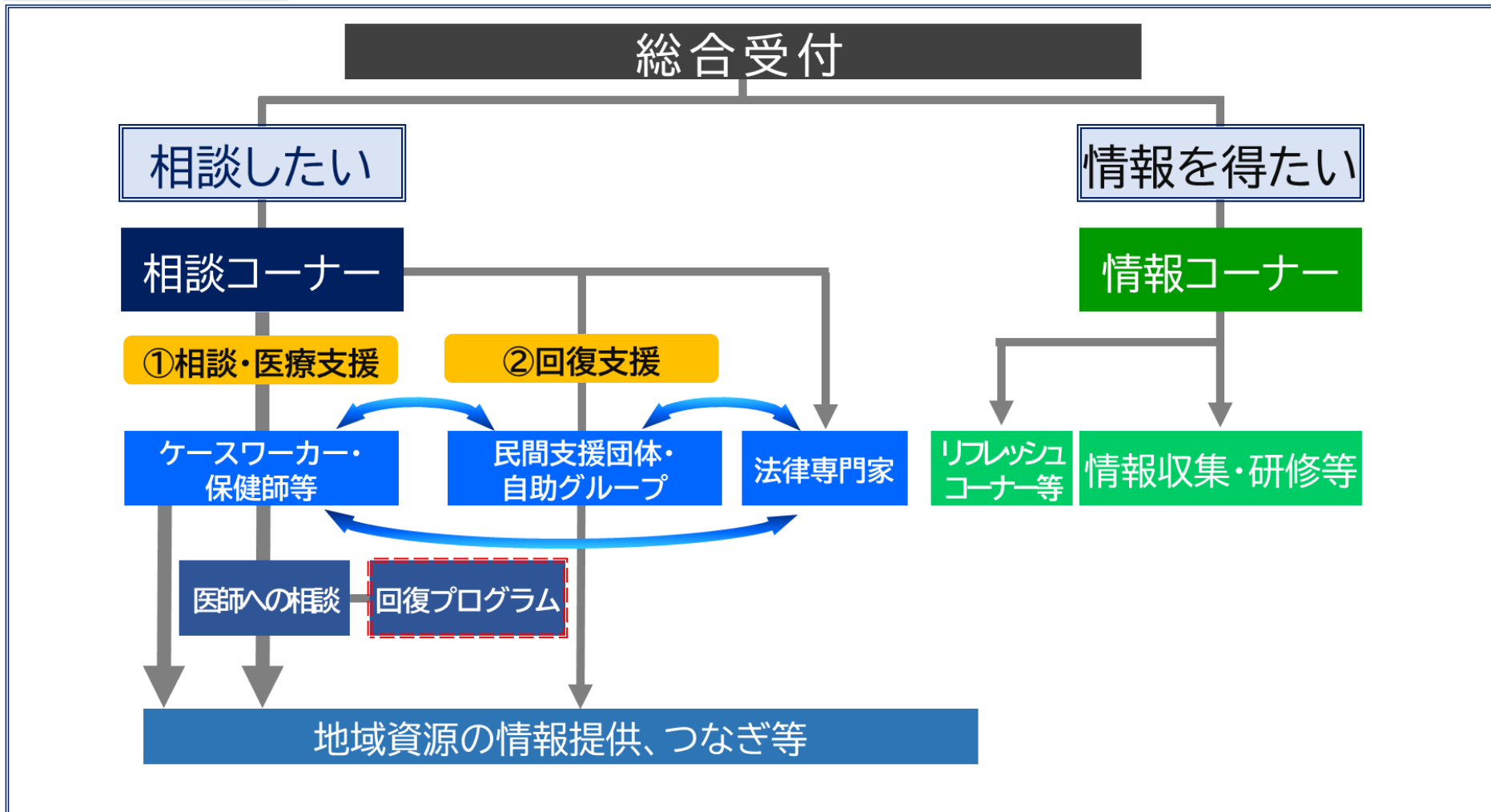
※SOGSの得点分布に応じた各割合の推計は、大阪府市実態調査(R4.11月実施)結果より

# I 相談・医療・回復へのワンストップ支援機能

## 1 ワンストップ支援窓口機能

(1) 来訪者(依存症問題を抱える本人・家族等)の支援フロー

<イメージ>





# I 相談・医療・回復へのワンストップ支援機能

## (2) 支援の対象・支援の範囲

### ◆対象者

- ▶ ギャンブル問題等で悩むご本人やご家族等がより気軽に相談できる場として、以下のとおりとしてはいかがか。

原則「高校生年齢以上<sup>※</sup>」のご本人及びそのご家族等(継続支援は、他の相談・医療機関を紹介)  
※小児(15歳未満)の依存症等の問題については、児童思春期科など地域の精神科医療機関での継続治療が望まれるため

### ◆依存種別ごとの支援の内容等

依存種別	支援の内容		
	情報提供	相談	医学的支援
ギャンブル等	○	○	医療相談 + 回復プログラム(平日夜間・日曜昼間)
アルコール・薬物 ネット・ゲーム・その他	○	○	医療相談 + ※アルコール・薬物依存症のプログラム実施については、精神症状の他、身体症状への医療アプローチも必要となることから、他の専門医療機関等を紹介する。

## (3)「回復プログラム」の実施方法等

- ▶ ギャンブル等依存症の相談者の約8割が有職者であるなか、相談や治療の一環として実施されているプログラムを以下のとおり実施するとしてはいかがか。

### 実施時間

主に「平日昼間」に実施している、府こころの健康総合センターや専門医療機関等との役割分担の観点から、当センターでは、「平日夜間・日曜」に実施。

### 実施方法

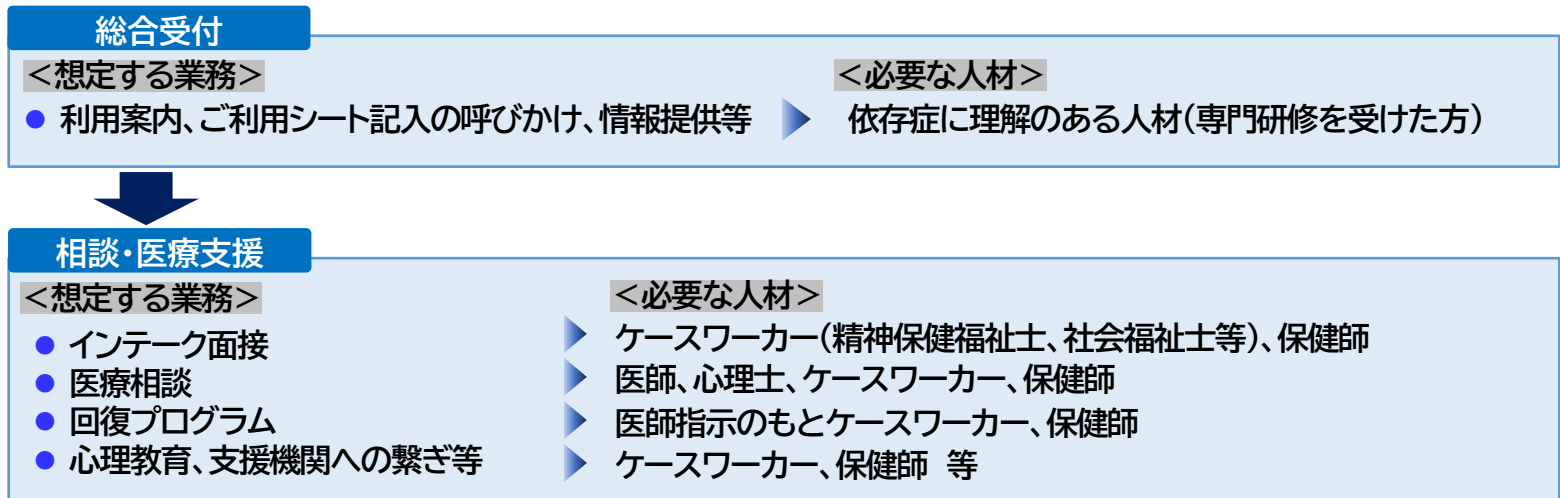
プログラム参加費は「無料」とし、より多くの方に対応するため、「初回」の方を対象に実施(標準的治療プログラムでは6回)。  
また、ギャンブル問題等に悩むご本人のみならず、その家族等を支援するための「家族サポートプログラム」も実施。

# I 相談・医療・回復へのワンストップ支援機能

## (4) 相談・医療支援に対応する人材

- ▶ 様々な人材を活用し、多職種で対応するために、以下のとおりとしてはいかがか。

(イメージ)



## (5) 切れ目のない回復支援体制を強化するために必要な方策

- ▶ 自助グループや回復支援施設等の各支援団体等との協働による、切れ目のない回復支援体制を強化していくために、どのような繋ぎの方法があるか。

- (例) ● 相談者へ各団体等の情報提供や案内を行う際などに、各団体等へ即時に繋げる仕組みとして、相談者と自助グループ等をオンラインで繋ぐ 等

# I 相談・医療・回復へのワンストップ支援機能

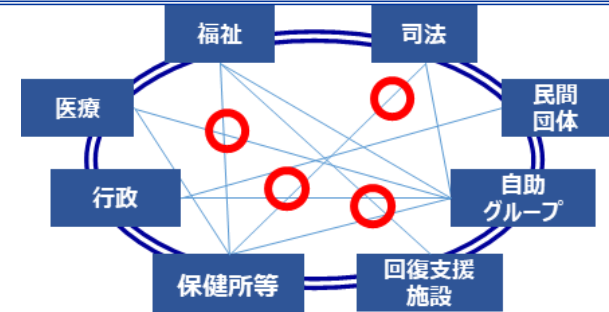
## 2 地域のコーディネート機能

### (1) 総合的な支援体制の強化等に向けた取組み

- OAC機能をより向上し、各機関・団体等と日頃から情報交換や課題共有などを行い、総合的な支援体制の強化・拡充に向けた効果的な取組みとして、以下の方法等を検討してはどうか。

(例)

- 定例的な会議
- 支援ケースの共有(本人同意前提)
- 同行支援を行う自助グループ・回復支援施設等への支援 等



### ※大阪アクションセンター(OAC)

#### 構成団体

行政機関(国)、府内行政機関(精神保健福祉センター、保健所)、一般社団法人大阪府薬剤師会、医療機関、医療関係団体(一般社団法人大阪精神科病院協会、公益社団法人大阪精神科診療所協会)、福祉関係団体(一般社団法人大阪府精神保健福祉士協会、日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会関西支部)、司法関係団体(大阪弁護士会、大阪司法書士会)、回復支援施設・民間支援団体、自助グループ、その他(関西アルコール関連問題学会、大阪府臨床心理士会)

## Ⅱ 普及啓発・情報発信機能

### (1)効果的な普及啓発の方法等

- 当センターが効果的で、かつ訴求力のある普及啓発を実施していくために、以下の観点が必要と考えるが、いかがか。

#### (例)

- ギャンブル等、アルコール、薬物等の依存症は、本人の意志や性格とは無関係に、誰もがなりうることを幅広い層に普及
- ギャンブル等依存症問題啓発月間等における普及啓発の実施にあたり、自助グループや回復支援団体等の支援機関との連携・協働を推進
- 様々な広報媒体(普及動画・資材等)について、最新の知見を踏まえ、誰もが親しみやすい方法・内容で発信
- 学校関係者や様々な方を対象としたセミナーなどの開催

### (2)情報収集等の場としてのあり方等

- 当センターが、仕事や買い物帰り等に気軽に立ち寄ることができ、相談に至らずとも、必要な情報の収集等ができる場となるため、以下の機能・設備等を備えることとしてはいかがか。

#### (例)

- 情報収集や会話、軽い運動などができるリフレッシュコーナー等を設置
- 依存症に限らず、メンタルヘルスなど幅広く情報提供するための啓発物の配置

# センターの相談時間・場所等について

## (1) 相談時間(想定)

- ▶ ギャンブル等依存症の相談者の8割が有職者である(※)ことなどを踏まえ、センターでの相談時間は、**昼間[14時]～夜間[21時]まで(土日休日含む)**を想定。(※)「大阪府・大阪市こころセンター相談実績報告」より
- ▶ 医療相談・法律相談は、原則「予約制」とする。

また、センター開設時間外での対応を可能とするため、以下の相談等を実施(想定)。

SNS相談

カウンセラーによるSNS上での相談

夜間

チャットボットによる質問

AIによる相談先等の紹介等

24時間365日

## (2) 相談場所(想定)

### 相談者用

- 受付コーナー
- 相談・医療・回復コーナー ※プライバシー保護のため仕切られた空間とする
- 会議室(プログラム実施等)、研修室(セミナー等)
- 法律相談コーナー(オンライン含む) 等

### 一般来訪者用

- 情報発信・普及啓発コーナー
- 研修室
- リフレッシュコーナー
- 子どもが遊べるコーナー(来訪者が未就学児等を連れて来所されることも想定)